

# 楽しく、美しい人生を デザインする

長寿社会を賢く生きたい市民のための講座

## まちの資源を探しにいこう！！

4 LIFESTYLE DESIGN PAPER

この講座では、予防医療や介護、看取り、地域コミュニティなどの側面から、第一線で活躍されている方を講師に迎え、参加者自身がクリエイティブな発想で「人生90年時代」の生き方を考えます。

第4回目のテーマは「まちの資源を探しにいこう」。これまでのワークショップで挙げられた野々市市にあるさまざまなモノやコト。自助・互助・共助・公助といった視点から集められたそれらについて、今度は実際に足を運び、「取材」を行います。今回はそのために必要な写真撮影のコツやインタビューの秘訣などを学びました。

### 前回までの ふりかえり

年末年始を挟んだ前回のワークショップ。前半は、流れを思い出す意味も含めてこれまでの振り返りを行いました。まずはこれまで何度も出てきた「社会資源」という言葉について。これは、「まちの中に既にある、暮らしに役立つもの」であり、単なる物や場所だけでなく制度や人までも含みます。これまでのワークショップでは、こうした〈資源〉をチームに分かれて丁寧に探ってきました。そしてここからは、それらがより有効に活用されるよう、情報を一元化してみんなに使いやすいかたちにまとめていきます。全国的に見ても、市民自身が自分たちの目線でまちを見直し、情報を発信するという例はまだほとんどありません。野々市モデル、ともいえる活動が始動しました！

日時：1月16日（土）14:30～17:00  
場所：金沢工業大学 23号館1F

### 当日の流れ

- ① はじめに
- ② 前回までのふりかえり
- ③ ワーク・講座
  - ・ チーム別相談会
  - ・ 取材講座
- ④ おわりに



## レクチャー インタビュー・カメラ講座

西上 ありさ 神庭 慎次 (studio-L)

野々市市がもっと楽しく、暮らしやすいまちと感じられるための「社会資源」。それらを紹介するための冊子づくりがよいよ始まりました。冊子化にあたり「取材」をするのは、市役所職員と市民が協働して結成した6つの市民ワーキンググループ。しかし、「さあ、いざ現場へ！取材へ！」といっても、何をどうしたらいいのでしょうか？今回は、実際にまちへ出て現場の様子を捉える際に役立つスキル講座を軸に、チームごとの時間も設け、取材先の細かな検討や相談などが行われました。

いつもの通り、講師の西上ありささんから振り返りがあったあとは、メンバー各自に持ち寄ってもらったデジカメを使っての「撮影講座」。同じくstudio-Lの神庭慎次さんから示されたのは「目線の先に空間を空ける」「身体と顔の向きが逆になっていると写真に動きが生まれる」「寄って撮ってみたり、引いて撮ってみたりする」などなど、ちょっと注意するだけで写真がグッと引き締まるたくさんの実際的なアドバイス。しかし、神庭さん曰くさらに大事なポイントは、なんと「設定はオートにしておくこと」、「とにかく枚数を撮ること！」だとか。なるほど、楽しい活動の現場やインタビュー中の表情などを逃さず押さえるためには、これが実は一番有効かもしれません。

西上さんからは、お話を聞く際の基本姿勢などについてレクチャーがありました。「正面から向き合うと相手が緊張してしまう場合があるので、できれば座るのは90度の位置で」「時々目は合わせて」「言葉にしたり頷いたりして、しっかり相槌を打つ」「腕組みはなるべく避ける」などなど……。基本的なことほど無意識に行ってしまうことが多い中、ハッと初心に帰るアドバイスをたくさんいただきました。

そして、その間には「リーダーズ・インテグレーション」のワークも実施。これまでもチームとして話し合いを重ねてきましたが、ここで改めて牽引役のリーダーを決定し、リーダーとチームがお互いに貢献できることを交わすことで、短い時間のなかで急速に結束を固めることができました。



### 基本的な取材のフロー

- 1 取材対象者を決定する
- 2 取材フロー（質問内容）と撮影イメージを考える
- 3 電話で取材のお願いと企画趣旨を伝える（撮影のイメージも）
- 4 取材、撮影の時間配分を考え、時間内にインタビューを終える
- 5 原稿と写真を取材相手に送り、確認してもらう

### 話しやすい雰囲気をつくるテクニック



### うまい写真を撮るコツ

- ①カメラの設定を「オート」にする
- ②たくさん撮影する（1枚/30s）

### 顔の方向に空間を



### 光の当たり方



### 違う角度から撮る



